

# 第13回

# 今年も「善福寺川 水鳥一斉調査」を行いました!!

## 【水鳥一斉調査の目的】

現在の善福寺川の自然を知ること、区民の皆さんにもっと善福寺川に注目してもらうことを目的に、善福寺川でどんな水鳥が、どこで、どれくらい利用しているかを一斉に調べる、「善福寺川 水鳥一斉調査」を実施しました。水鳥以外の鳥もあわせて調べました。

＜実施日＞ 令和3年1月30日(土) 10:00~12:00 晴れ

## 【調査の方法】

区民の皆さんと善福寺川の自然を再確認する＜区民参加による水鳥調査＞と、善福寺川全域の水鳥の利用状況を把握する＜専門の調査員による水鳥調査＞を行いました。

## ＜調査ルート＞



## ＜区民参加による水鳥調査＞

今年も善福寺公園（Aルート）、西田橋～尾崎橋（Dルートの一部）、尾崎橋～和田堀池（Eルートの一部）において、善福寺川流域の小学校の児童とともに、鳥に詳しい先生の解説を受けながら、善福寺川を利用する鳥について観察し、種類や個体数を記録しました。



参加した小学生の皆さんとの調査風景

## ＜専門の調査員による水鳥調査＞

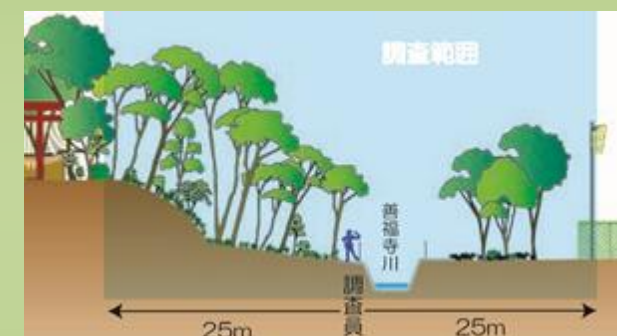
善福寺川を6区分し、それぞれの区間に約2kmの調査ルート（A～F）を設定、各ルートに出現する鳥類の確認を同時間一斉に実施しました。

調査は、一定の速度で2時間歩き、ルート上の幅50m（片側25m）の範囲に出現する鳥類の種類、個体数、諸行動について記録しました。

各ルートについて、Aルートは池の周辺に樹林や植栽帯、池内にヨシや低木が点在しています。B・Cルートは住宅地内、D・Eルートは緑地内をそれぞれ川が流れて、Fルートは住宅地からビル街にかけて川が流れています。



池があるAルート



緑地が広がるD・E・Fルート

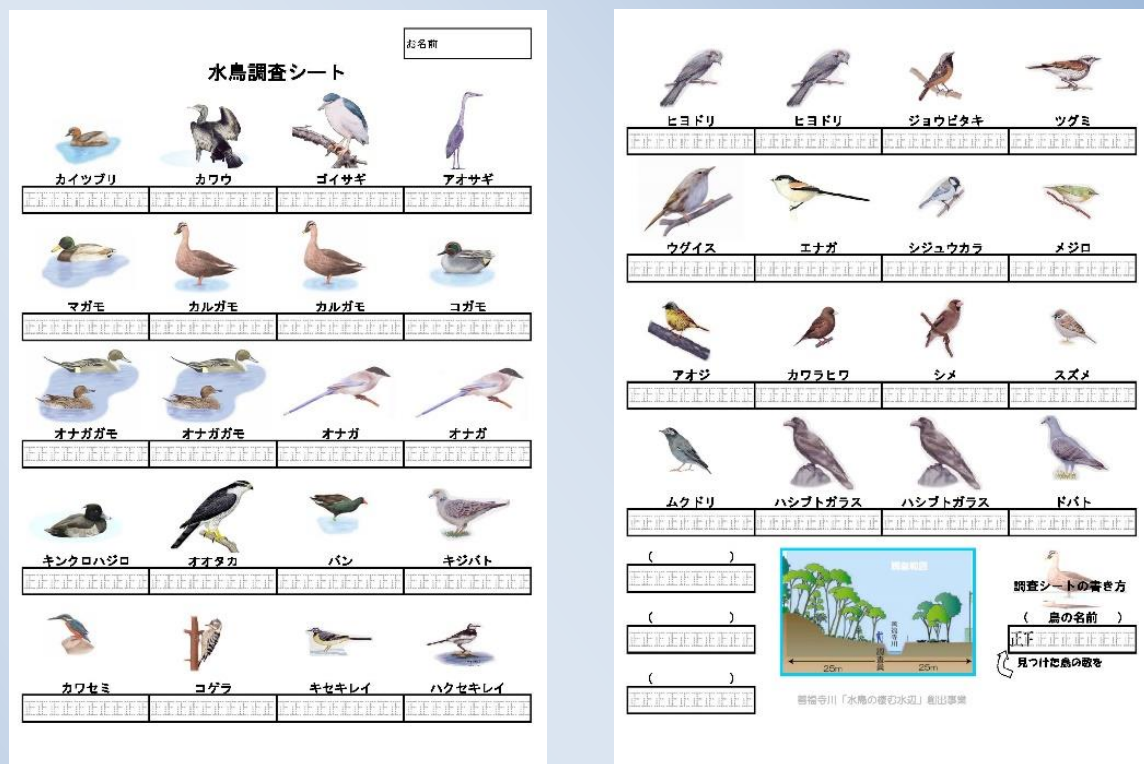


専門の調査員による調査風景

# 今年の水鳥調査参加小学校

## ◇参加小学生による調査記入シート

小学生による調査記入シートにはどんな鳥を見たのかがすぐにわかるように鳥の絵が描かれています。そこに見られた鳥の数を「正」の字を使って記入していきます。



## ◇今年の参加小学校

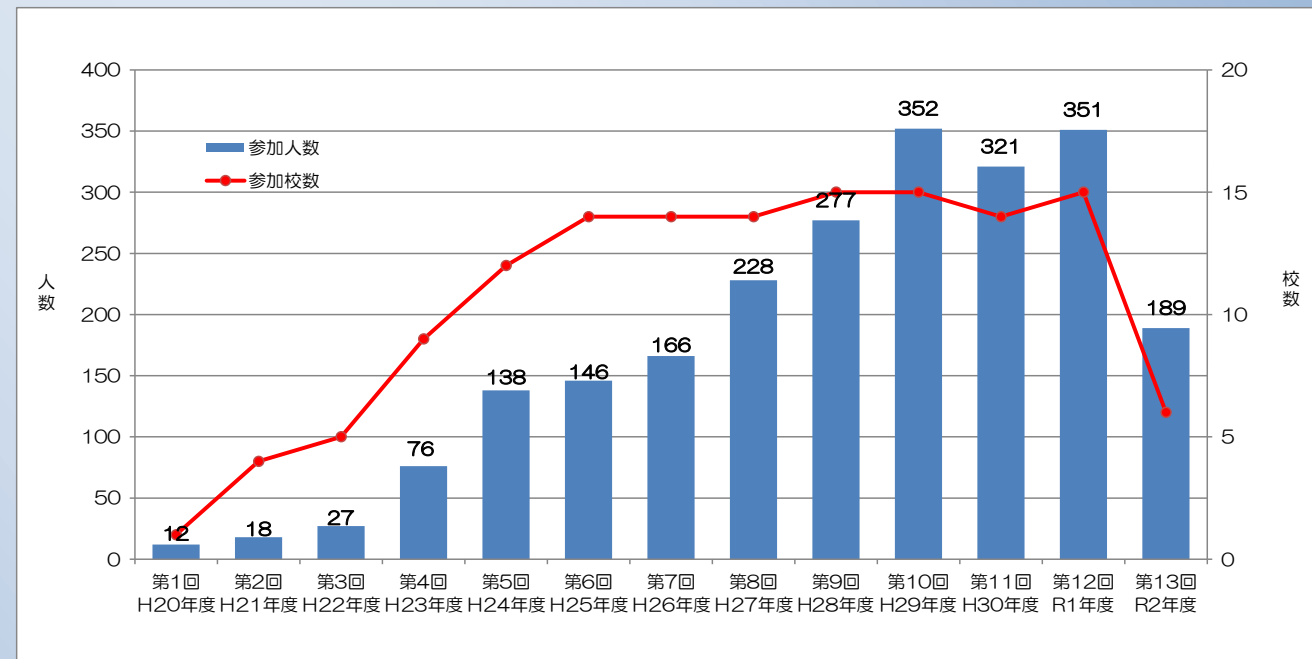
第13回を迎える今年は、小学校6校96名の生徒さんと、その保護者の方々93名の合計189名が参加しました。また、13名の解説員の先生に協力いただきました。

調査コース	参加小学校(6校)	参加人数	解説員
善福寺公園	井荻 桃井第四	小学生：29名 保護者(未就学児含む)：26名	西村 真一 先生 谷口 高司 先生 谷口 律子 先生
西田橋～尾崎橋	杉並第二 西田	小学生：31名 保護者(未就学児含む)：28名	伊藤 晴康 先生 本多 直子 先生 石原 武 先生 井上 耀右 先生
尾崎橋～和田堀池	松ノ木 浜田山	小学生：36名 保護者(未就学児含む)：39名	中里 昌樹 先生 渡辺 博重 先生 六車 貴美子 先生 佐々木 幹夫 先生 赤見 広之 先生 西谷 淳 先生
計		小学生：96名 保護者(未就学児含む)：93名	

## ◇水鳥調査参加状況の推移

第1回は小学校1校、12名の少人数で始まった調査ですが、回を重ねるごとに参加者、参加校が増え、近年は300名を超える方々に参加いただいております。

今年は、規模を縮小し実施したため、例年に比べて少人数での調査となりました。



## ◇今年の参加小学校の位置図

今年も善福寺川流域の小学校に参加いただきました。



# 区民参加による水鳥調査の結果

## ◇最近3年間の調査結果(確認した鳥と数)

今年の調査では、「水鳥」は、カルガモが最も多く見られ、次いでオナガガモ、キンクロハジロ、ハクセキレイ、マガモでした。カワセミもすべてのコースで見られました。そのほかAルートではカイツブリ、ゴイサギ、アオサギなどが良く観察されました。

「水鳥以外」では、ムクドリ、ヒヨドリ、ハシブトガラスなどが多くみられ、エナガの群れも観察できました。オオタカもすべてのコースで確認しました。

確認した種	今年の結果(2021年1月)			昨年の結果(2020年2月)			一昨年の結果(2019年1月)		
	Aルート (香保寺公園)	Dルート (西田橋~地蔵橋)	Eルート (地蔵橋~和田橋)	Aルート (香保寺公園)	Dルート (西田橋~地蔵橋)	Eルート (地蔵橋~和田橋)	Aルート (香保寺公園)	Dルート (西田橋~地蔵橋)	Eルート (地蔵橋~和田橋)
1 アオサギ	1~10			1~11	1	1~11	4~20		1~9
2 オオバン	1~5			1~5			1		
3 オカヨシガモ				1~4					
4 オナガガモ	1~55	1~4	2~22	1~7	1~11	1~16	1~79	2~14	2~30
5 カイツブリ	1~43			1~16	6	1~6	1~23		2
6 カルガモ	4~60	1~20	1~27	7~88	2~18	4~48	4~80	5~30	3~64
7 カルガモ×マガモ									
8 カワウ	1~5			1~6	1		1		1
9 カワセミ	1~4	1~2	1	2~9	1~2	1	1~21	1	1~4
10 キセキレイ		1~2	1~5	1~5	1~10	1~6	1~7	1	1~4
11 キンクロハジロ	1~43	1~2	1~8	5~11		1~5	1~28		1~14
12 ゴイサギ	1~17			1~7	1	1~3	1~11		
13 コガモ	2	1~3	1~7	1~5	1~3	1~3	1~15	1~4	1~6
14 コサギ				1~2			1~7		
15 スズガモ									
16 セグロセキレイ									
17 ダイサギ				1					
18 ハクセキレイ	1	1~10	1~6	1~3	1~16	1~10	1~10	3~14	1~15
19 ハシビロガモ	1~5			1~3			1		
20 バン	1~7		2	1~9			6		
21 ホシハジロ	2~8								
22 マガモ	1~8	1	1~8	1~2	1~5	1~9	1~17	1~5	1~9
23 ユリカモメ									
24 アイガモ(アヒル含む)									
25 パリケン									
小計	15種類	8種類	9種類	18種類	11種類	12種類	16種類	8種類	11種類
		16種類			18種類		16種類		
1 アオガラ									
2 アオジ		1	1~5	1	1~6		1~3		
3 アカハラ	1~8								
4 アトリ							1	1~6	1~13
5 ウグイス	1			1~3		1	1~2		1
6 エナガ	4~35	1~3	1~7	1	1~8	1~15	1~4	1~23	1~3
7 オオタカ	2	1~2	1~3	1~2		1~2	1~11		1~3
8 オナガ	1~25	1~3	1~5	1~45	1~3	4~83	1~10	5~10	1~12
9 カワラヒワ		4~5	1~20	1	1~3	1~22	1~5	1~9	3~10
10 キジバト	1~10	2~15	1~9	1~40	1~9	1~15	1~25	1~31	1~12
11 コガラ	1~5	1~7	1	1~5	1~11	1~5	1~4	1~5	1~3
12 シジュウカラ	1~7	2~14	1~16	1~11	2~30	1~10	1~45	1~13	1~14
13 シメ	1	1		1	1	2	1	1~2	1~15
14 ジョウビタキ	1		1	1~2	1~13		1~10		
15 シロハラ	1~2						2		1~2
16 スズメ	1~9	1~6	1~3	1~3	1~10	1~17	1~7	1~5	1~12
17 ツグミ	1	1~8	1~8	1~3	1~10	1~6	1	1~5	1~4
18 ツミ									1
19 トビ									
20 ハシブトガラス	1~5	1~35	1~64	1~18	2~19	3~48	1~47	1~10	1~73
21 ハシボソガラス	1~4	1~10	1~7	1~9	1~3	2~55	1~4	1~5	1~6
22 ヒガラ				3		5	10		
23 ヒヨドリ	2~25	1~35	2~64	1~7	3~20	1~20	2~53	2~46	3~27
24 ムクドリ	2~50	3~50	1~25	1~12	1~60	1~30	1~6	1~30	2~4
25 メジロ	2~10	1~3	1~5	1~5	1~14	1~7	1~3	1~10	1~5
26 モズ		1		1	1~3	1~5			
27 ヤマガラ								1~6	
28 ルリビタキ									
29 ドバト	1~85	6~9	1~12	11~86	1~37	1~11	1~41	6~128	1~29
30 ホンセイインコ	2				1~2				
31 ニワトリ									
小計	20種類	18種類	17種類	20種類	20種類	19種類	21種類	18種類	20種類
		23種類			22種類		24種類		
確認した鳥の種類数	35種類	26種類	26種類	38種類	31種類	31種類	37種類	26種類	31種類
		39種類			40種類		40種類		

注意1: 調査用紙に記入された観察数のうち、最少数~最多数を示している。ただし、極端に数が多かったり、不自然な種類の記載があった場合は修正を行った。

注意2: 赤字はそれぞれのコースで確認個体数が多い上位3種。

## ◇今年確認された主な水鳥たち



カルガモ



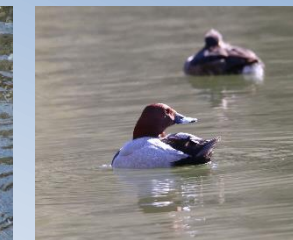
オナガガモ



キンクロハジロ



マガモ



ホシハジロ



カイツブリ



ゴイサギ



アオサギ



カワセミ

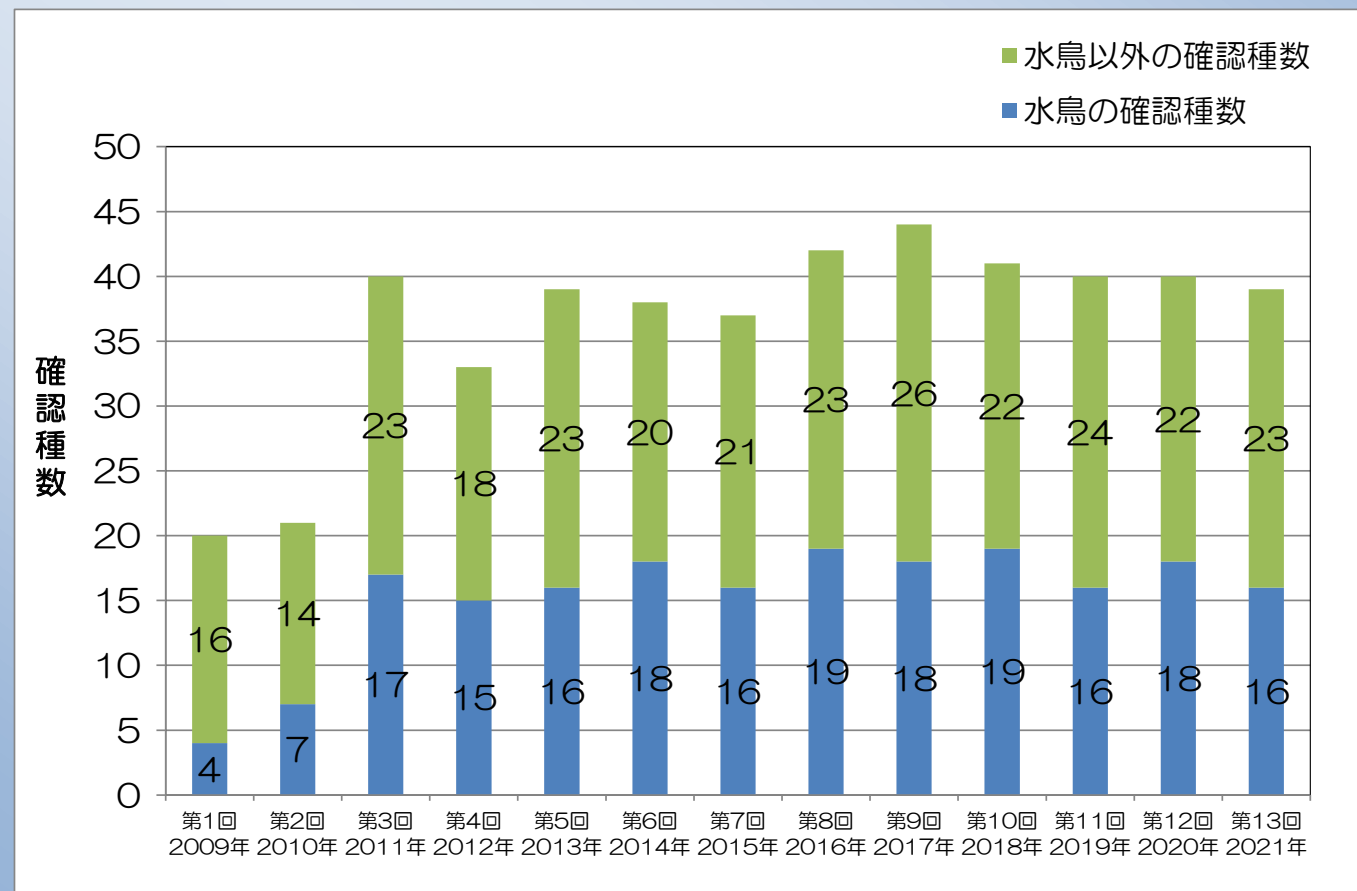


ハクセキレイ

## ◇確認された鳥の種数の推移

第1~2回の調査では、確認種数は少なく、20種類程度でしたが、参加者や調査範囲が増えることにより種類も増え、近年は40種近くを観察できるようになりました。

なお、今年は規模を縮小して行いましたが、これまでと同じような種類の鳥を確認出来ました。



# 専門の調査員による水鳥調査の結果 1

今回の専門調査員による調査では、善福寺川全体で40種類の鳥類（水鳥以外の鳥も含め）が確認され、このうち「水鳥」は、18種類でした。

全体を通して最も多く見られた鳥は、「1位 カルガモ」「2位 ドバト」「3位 オナガガモ」で、概ね昨年と同じ傾向でした。

最も多くの種類が確認されたルートは、Aルート（善福寺公園）で、善福寺池を中心に多くの水鳥が確認されたほか、アオゲラやウグイス、アカハラなど樹林を利用する種類などが特徴的に見られました。

一方、確認種類数が少なかったのはFルート、確認個体数が少なかったのはDルートでした。

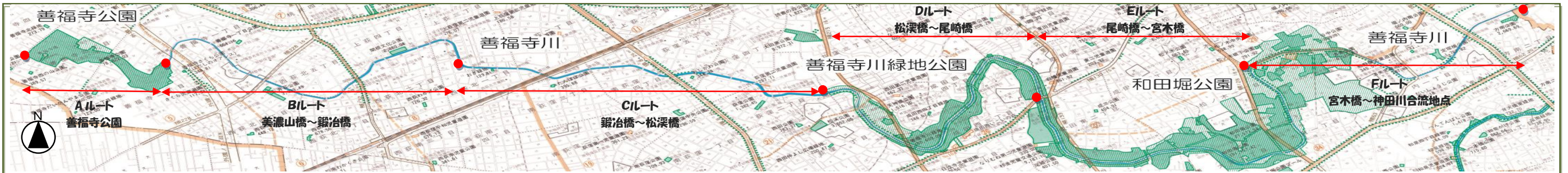
オシドリ、スズガモ、ユリカモメ、トビ、ルリビタキ、セグロセキレイなどは、この調査で、ここ3年間観察されていない種でした。

目名	科名	種名	全体			Aルート			Bルート			Cルート			Dルート			Eルート			Fルート			
			2021年	2020年	2019年	2021年	2020年	2019年	2021年	2020年	2019年	2021年	2020年	2019年	2021年	2020年	2019年	2021年	2020年	2019年	2021年	2020年	2019年	
カモ	カモ	オナガガモ		1			1																	
		オカヨシガモ																						
		ヒトリカモ	25	21	6				8	3	2	17	18	4										
		マガモ	3	3	5	2		2	1	3	2												1	
		カルガモ	196	212	151	58	45	44	4	24	4	38	52	19	10	13	22	38	54	47	48	24	15	
		ハシロカモ	4	5	7	4	3			2	7													
		オナガガモ	177	159	194	9	2	19	34	31	35	54	85	89	22			10	1	7	48	40	44	
		コガモ	76	92	75	3	3	3	16	30	28	40	40	28			1	4		2	13	19	13	
		ホシハシロ	10	6		8	1			2		2	3											
		キンクロハシロ	53	13	8	39	5	3		5	5	4	3		3			7						
		スズガモ																						
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	6	8	3	6	8	3																
ハト	ハト	キンハト	20	14	18	3	4	8	2		3	2	1		8	2	5	4	6	2	1	1		
カワトリ	ウ	カワウ	5	9		2	2		2	4			1		1				1			1		
ヘリカン	サギ	ゴイサギ	9	10	4	9	10	4																
		アオサギ	8	7	8	8	6	8												1				
		ダイサギ		2			1																1	
		チュウサギ			1												1							
		コサギ	3	6	8			2	1	3	3	1	3	1								1	2	
		ツル	クイナ	ハン	3			3																
		オオハン	4	3		4	2					1												
チドリ	カモメ	ユリカモメ																						
タカ	タカ	トビ					1																	
		ツミ		1																				
		オオタカ	1		2			2															1	
フクロウソウ	キツツキ	カワセミ	3	7	4	3	4	2		1	1		1		1							1		
		コゲラ	10	7	6	2		3				1			5	2	2	2	5	1				
		アオゲラ	1			1																		
スズメ	モズ	モズ	1	1	2			2							1									
		オナガ	21	10	3	15	5	3				4											4	
		ハシホリガラス	19	19	7	5	4		4	1	2	3	7				4	7	7				1	
		ハシブトガラス	35	34	32	7	15	8			1	2			4	3	3	4	23	16	13		2	
		カラス科の一種																						
		シジュウカラ	70	40	46	11	15	29	2	3	1	5			6	7	12	5	14	3	41	1	1	
ヒヨドリ	136	57	126	45	19	59	8	6	3	2	4	10	12	6	25	61	16	22	8	6	7			
ウグイス	1	3	17	1	2	16													1	1				
エナガ	8	13	13	6	4								2	2	13			7						
メシロ	39	20	27	15	5	8	3		2	6	4	2	6	5	4	9	6	7				4		
ムクドリ	149	68	28	41	10	7	4	11	3	44	6	3	6	10	15	23	21				31	10		
ヒタキ	シロハラ	シロハラ	1	1	3	1	1	2															1	
		アカハラ	1			1																		
		ツグミ	7	9	2	2	2				1				3		2	1	1					
		ルリヒタキ																						
		ジョウビタキ	1	1		1	1																	
スズメ	スズメ	50	23	61				7	11	9	22	2	20			13	4	8	5	17	2	14		
セキレイ	セキレイ	キセキレイ	6	13	6	1		1	1	3		4		1	1	2		2	2	3	3	1		
		ハクセキレイ	48	57	58		2	3	13	13	11	10	19	10	5	5	17	11	10	9	9	8	8	
		セグロセキレイ																						
アトリ	アトリ	アトリ			9																	8		
		カワラヒワ	15																				2	
		シメ			4			4																
ホオシロ	アオシ		1	4			3						1									1		
カモ	カモ	アイカモ(アヒルを含む)																						
		ハリケン																						
		ガチョウ																						
		カルガモ×マガモ			2																	1		
ハト	ハト	ドバト	193	154	121	56	77	16	19	13	7	89	38	2	4				3	43	25	23	11	
インコ	インコ	ホセインコ	7	11	4	4	5	2				3	1			2	2		3					
		個体数	1425	1121	1075	376	265	266	129	170	129	349	297	194	102	61	185	222	185	178	247	143	123	
		種類数	40種	39種	36種	33種	31種	28種	17種	20種	19種	20種	22種	13種	17種	15種	18種	19種	21種	20種	13種	14種	13種	

注1)青字は、水鳥（外来種は含まず）  
 注2)紫字は、外来種  
 注3)ピンクの網かけは、各ルートで確認数の多い種(上位3種)  
 注4)灰色の網かけは、交雑個体であるため種類の合計には含まない

# 専門の調査員による水鳥調査の結果 2

## ◇善福寺川における「水鳥」の確認頻度(13年間の調査から)



13回の調査で  
確認された割合

	Aルート	Bルート	Cルート	Dルート	Eルート	Fルート
80~100% ほぼ毎回観察 される水鳥						
60~80%						
40~60%						
20~40%						
1~20% 観察は 稀な水鳥						

確認された種類数

20種類

16種類

20種類

10種類

13種類

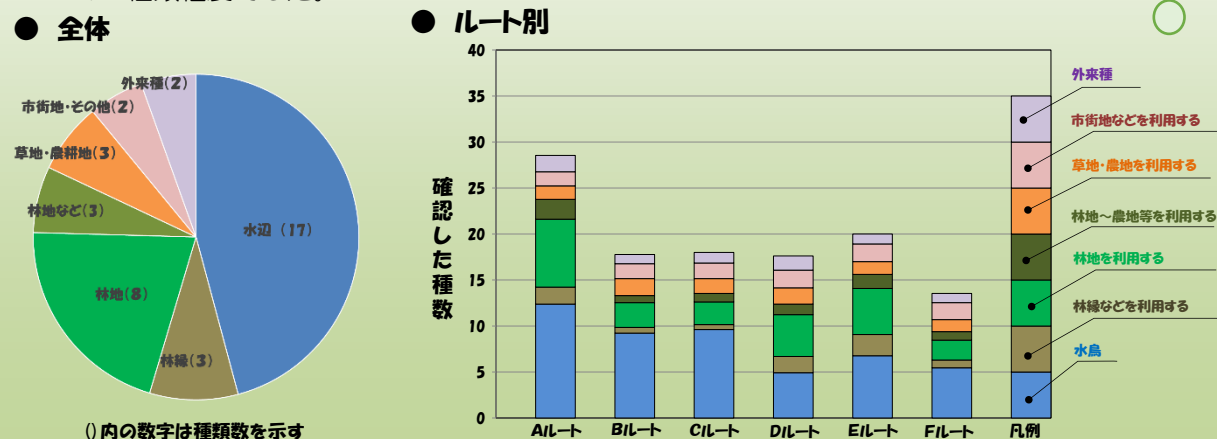
10種類

# 専門の調査員による調査結果 3 (13年間の調査のまとめ)

## ◇主な生育環境による区分別の確認種数(13年間)

13年間の一斉調査の結果から、確認された鳥を主な生息環境により区分し、種類や確認個体数をルート別に平均して比較しました。

- ▶ **全体**
  - 善福寺川全域には冬の時期に約38種、1500羽ほどの鳥が利用していることが分かりました
  - そのうち善福寺川にいる「水鳥」は、約17種、710羽でした。
- ▶ **ルート別**
  - Aルート(善福寺池)では、約28種類、390羽で最も多くの鳥がみられました。
  - 対照的に、種類が最も少ないのは最下流部のFルートで約14種類、約200羽でした。
  - Aルートは、約12種類の「水鳥」がみられ、その数は約220羽となります。
  - 対照的に、「水鳥」の種類が最も少ないのは善福寺川緑地の中を通るDルートでした。
  - 「林縁」「林地」「林地～農地」を利用する鳥は、A、D、Eルートで多く、その種類は、10種類程度でした。

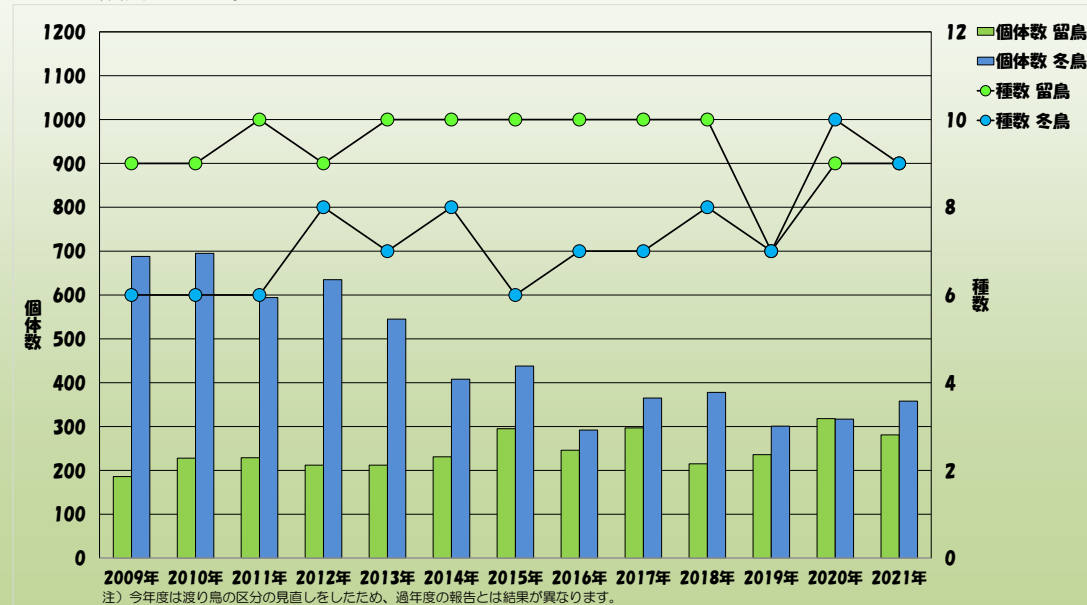


- <外来の鳥>  
ガチョウ、バリケン、ドバト、ホンセイインコ
  - <市街地などを利用する鳥>  
スズメ、ハシブトガラス
  - <草地・農地を利用する鳥>  
ジョウビタキ、ムクドリ、ハシボソガラス
  - <林地などを利用する鳥>  
トビ、オオタカ、ツミ、キジバト、オナガ
  - <林地を利用する鳥>  
アオゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ルリビタキ、アカハラ、シロハラ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、シメ、アトリ
  - <林縁などを利用する鳥>  
モス、ツグミ、アオジ、カワラヒワ
  - <水鳥(水辺を利用する鳥)>  
カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、オシドリ、オカヨシガモ、マガモ、ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、バン、オオバン、カワセミ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ユリカモメ
- ※調査時間外のみ確認種は除く

## ◇水鳥における渡り鳥と留鳥の確認状況の変化

鳥は種類によって、一年中その場所にとどまる「留鳥」と冬に渡ってくる「冬鳥」など区分されます。善福寺川の水鳥もその視点で見ると、以下のような傾向が分かりました。

- オナガガモなど冬鳥の個体数は、2009～2012年頃まで、600～700羽近く確認されましたが、徐々に減少し、最近では300羽前後に推移しています。
- 一方、カルガモなどの留鳥の個体数は、2009～2014年頃は200羽前後でしたが、最近では、300羽前後となっています。
- 種類数を見ると個体数とは対照的に、冬鳥の種類数は、近年わずかに増加している傾向でした。



## ◇善福寺川と杉並区全域の確認種の比較

13回の調査で、善福寺川では約50種類もの鳥を確認することが出来ました。

このうち、水鳥は24種類(雑種等を除く)で、これは杉並区全域で確認されている水鳥(25種類)のほとんどに該当します。

水鳥以外の鳥についても、杉並区で観察される鳥の種類数の半分以上を観察できることがわかりました。

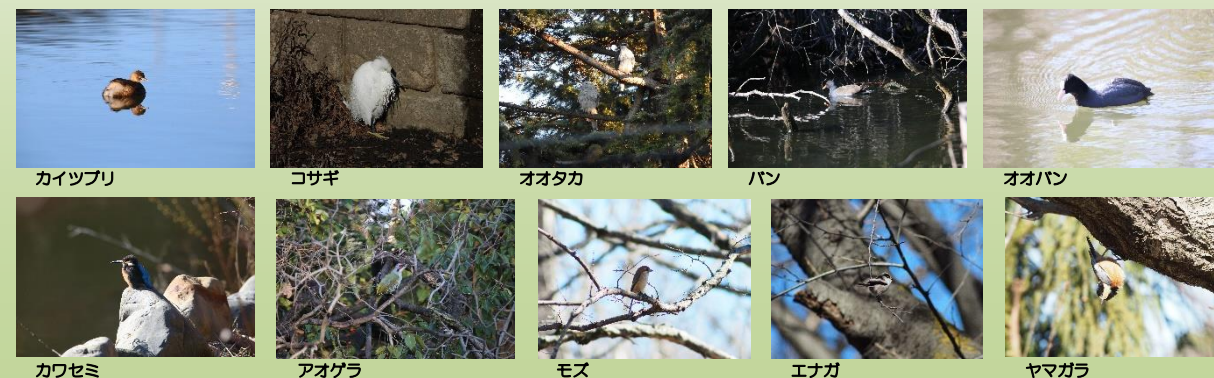
分類	目	科	種名	渡り区分	善福寺川	杉並区全域※1
水鳥以外の鳥	ハト	カウコウ	キジバト	留鳥	●	●
			ツツドリ	旅鳥	●	●
			カウコウ	旅鳥	●	●
	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	旅鳥	●	●
			ヒメアマツバメ	不明	●	●
			トビ	不明	●	●
	タカ	タカ	ツミ	留鳥	●	●
			ハイタカ	不明	●	●
			オオタカ	留鳥	●	●
	キツツキ	キツツキ	コゲラ	留鳥	●	●
			アオゲラ	留鳥	●	●
			チヨウゲンボウ	不明	●	●
	ハヤブサ	ハヤブサ	カササギヒタキ	旅鳥	●	●
			モス	不明	●	●
			カケス	不明	●	●
水鳥	カモ	カモ	オナガ	留鳥	●	●
			オナガガモ	留鳥	●	●
			ハシボソガラス	留鳥	●	●
			ハシボソガラス	留鳥	●	●
			ヤマガラ	留鳥	●	●
			シジュウカラ	留鳥	●	●
			ヒガラ	留鳥	●	●
			シジュウカラ	留鳥	●	●
			ツバメ	留鳥	●	●
			ツバメ	留鳥	●	●
			ヒヨドリ	留鳥	●	●
			ウグイス	留鳥	●	●
			エナガ	留鳥	●	●
			メシロ	留鳥	●	●
			メシロ	留鳥	●	●
オオヨシキリ	留鳥	●	●			
ヨシキリ	留鳥	●	●			
ムクドリ	留鳥	●	●			
シロハラ	留鳥	●	●			
アカハラ	留鳥	●	●			
ツグミ	留鳥	●	●			
ルリビタキ	留鳥	●	●			
ジョウビタキ	留鳥	●	●			
エビビタキ	留鳥	●	●			
ゴササギ	留鳥	●	●			
キビタキ	留鳥	●	●			
オオルリ	留鳥	●	●			
スズメ	留鳥	●	●			
セキレイ	留鳥	●	●			
ピンズイ	留鳥	●	●			
アトリ	留鳥	●	●			
カワラヒワ	留鳥	●	●			
シメ	留鳥	●	●			
ホオジロ	不明	●	●			
カシラダカ	不明	●	●			
アオジ	不明	●	●			
キジ	不明	●	●			
コジュケイ	不明	●	●			
カワラバト(ドバト)	不明	●	●			
ハト	不明	●	●			
インコ	不明	●	●			
ホンセイインコ	不明	●	●			
ガビチョウ	不明	●	●			
カビチョウ	不明	●	●			
計(雑種は除く)				24	25	
				28	52	

## ◇これまでの調査で確認された希少種

国や都のレッドデータブックに掲載されている希少種のうち、これまでの調査で19種類を確認しました。希少種は、善福寺公園のあるAルートで最も多く、次いでEルートとCルートで多く確認しています。今年、カイツブリやオオタカなど10種類の希少種を確認できました。

目名	科名	種名	今年の確認(確認ルート)	これまでの調査で確認された場所						国RD <sup>※1</sup>	東京都RD <sup>※2</sup>
				Aルート	Bルート	Cルート	Dルート	Eルート	Fルート		
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	A	●	●	●	●	●	●	●	NT
コウノトリ	サギ	ダイサギ		●	●	●	●	●	●	●	VU
		チュウサギ		●	●	●	●	●	●	●	VU
		コサギ	B, C, F	●	●	●	●	●	●	●	VU
カモ	カモ	オシドリ		●	●	●	●	●	●	●	EN
		スズガモ		●	●	●	●	●	●	●	DD
		トビ		●	●	●	●	●	●	●	●
タカ	タカ	オオタカ	E	●	●	●	●	●	●	●	NT
		ツミ		●	●	●	●	●	●	●	●
		フスリ		●	●	●	●	●	●	●	●
ツル	クイナ	バン	A	●	●	●	●	●	●	●	EN
		オオバン	A	●	●	●	●	●	●	●	●
フクロウソウ	カワセミ	カワセミ	A	●	●	●	●	●	●	●	VU
		アオゲラ	A	●	●	●	●	●	●	●	●
キツツキ	セキレイ	セグロセキレイ	A	●	●	●	●	●	●	●	EN
		モス		●	●	●	●	●	●	●	●
スズメ	エナガ	エナガ	E	●	●	●	●	●	●	●	VU
		エナガ	A, D, (E)	●	●	●	●	●	●	●	●
		ヤマガラ	(E)	●	●	●	●	●	●	●	●
		ウソ		●	●	●	●	●	●	●	NT
種数の合計				10	12	5	8	5	9	2	

- ※1 レッドデータブック(環境省,2018)  
NT: 準絶滅危惧  
DD: 情報不足
- ※2 東京都レッドデータ(東京都,2013)  
EN: 絶滅危惧ⅠA類  
VU: 絶滅危惧ⅠB類  
VU: 絶滅危惧Ⅱ類  
NT: 準絶滅危惧  
\*: 留意種  
●: 非分布種



※1「杉並区自然環境調査報告書(第7次)」 調査は1985～2018年の間に10回実施。旅鳥は除く。